

午前0時のセーブデータ



20260612



エリー



目次

本文	1
----------	---

本文

わたしは、読解の問題集を解き続けた。答えを考えるのではなく、例文から探すと知り、あんなに分からなかった作者の考えが、面白いように見つかった。

しかし、明日のテストは数学だ。でも、やりたいことをやる方が身につくはず。そう信じて、シャーペンの芯を出す瞬間さえ惜しいほど夢中になった。

「桜奈」

母の声だ。いつの間に入ってきたのだろう。全く気付かなかった。

「ママ、聞いて。読解って考えたらダメなの、答えを例文から探さなくちゃダメなの！」

みるみる母の顔が曇り、冷ややかな視線に変わる。

「それならわたしが言いたいこともわかるのかしら？」

「ああ、明日は数学のテストって言いたいんでしょ？ でも鉄は熱いうちに打って言うじゃない」

アップルパイと紅茶の載ったお盆をガチャンと置くと、いつもの母に戻って言った。

「それならわたしは寝る時間なんで、先に休ませてもらいます。おやすみなさい」

「おやすみ」

わたしは読解に満足して、深夜2時にやっと寝た。

眠い。すごく眠い。でもあんなに努力したのだからいつか報われるはず。

それが今ではないことを、数学の問題を裏返して見た瞬間、悟った。

忘れていた公式がたくさんある。昨日、見返していたら！

どうしてママは注意してくれなかったの？

違う！

これは自分で選んだ結果だ。

必死に取り組んだが、結果は65点。80点を下回ったことはなかったのに！

今さら遅いと知りつつ、間違えた問題を解き直し、公式を覚えた。

このゲーム超面白い！

でも、寝るべき時間だ。

海岸を半周回ったところで、貝殻拾いを止め、ゲームを終了した。

時計は深夜0時を指している。

スマホを手の届かない勉強机に置き、布団に入ると、わたしは目を閉じた。

午前0時のセーブデータ 20260612

著 者 ELYE

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
